

# ひょうごの福祉

認め合い ともにつながり 支え合う みんなでつくる ひょうごの福祉

2018

4

No.806

## P2 特集

### 兵庫県社協 平成30年度の主要事業 ～地域での支え合いをすすめよう!～

P6 「ストップ・ザ・無縁社会」地域での支え合い

P7 みんなでつくるひょうごの福祉  
NPOをエンジンに居場所を創る  
～みんなが集える“いぶき庵”～

P8 キラリ★社会福祉法人  
社会福祉法人 勝心会  
買い物支援サービス

P9 私の物語  
人生の再出発ができる“回復の街”へ  
梅田 靖規さん(神戸市)

P10 ひょうごの福祉NOW

P12 インフォメーション



淡路島産の  
新たまねぎが  
匂を迎えるよ!



4月2～8日は「発達障害啓発週間」です。



この機関紙は赤い羽根共同募金配分金により発行しています。





# 兵庫県社協 平成30年度の主要事業 ～地域での支え合いをすすめよう!～

県社協でも、記念事業と歩調を合わせた取り組みを展開する予定だ。特に、「ストップ・ザ・無縁社会」全県キャンペーンは5年が経過し、本年度から「地域での支え合いをすすめるよう」を合言葉に、地域での支え合い活動を強化していく。

こうした支え合い活動をはじめ、公民協働による全県的な地域福祉推進の指針となり、各福祉分野の上位計画にあたる「兵庫県地域福祉支援計画」の第4期の策定に協力をする。

また、社会福祉法人制度改革において「地域における公益的な取組」が法人の責務として明文化されたことから、市区町域で「社会福祉法人連絡協議会」(ほっとかへんネット)の設置促進を進めていく。

福祉人材の確保や育成のほか、多様な人材参入の促進策についても重点的に取り組むこととしている。

全県的な地域福祉の推進に向けて、県社協は次の事業方針により実行計画に掲げた事業を展開する。

## 平成30年度の県社協の事業方針

- 1 多様なネットワークの構築・推進**  
「地域共生社会」の実現を目指し、多様な主体が協働する場・仕組みづくりを進めるとともに、大規模災害にも対応可能な多様なネットワークづくりを進める。
- 2 福祉人材の確保・育成**  
福祉現場のニーズを踏まえ、人材確保に向けた多様な取り組みを進めるとともに、研修機能の強化を見据えつつ、社会福祉研修所の移転準備を進める。
- 3 社会福祉法人の地域における公益的な取組の促進**  
制度改革の趣旨を踏まえ、社会福祉法人の経営支援を強化するとともに、「地域における公益的な取組」を全県的に推進するため、「社会福祉法人連絡協議会」の設置・運営支援を強化していく。

社会福祉を取り巻く情勢・動向を見ると、生活・福祉課題の多様化・深刻化を背景に、暮らしの場である「地域」での総合的・包括的な支援体制づくりが大きなテーマとなってきている。

兵庫県社協では、昨年度「県社協2020年計画」(平成28～32年度)に基づいて目指すべき成果目標を設定し、実行計画を策定した。

特集では、本年度の県社協の事業方針・主要事業を紹介する。



## 県社協2020年計画のアクションプランと実行計画に基づく「重点的な取り組み」

「ストップ・ザ・無縁社会」全県キャンペーン

**Action1 市町社協とともに地域福祉の基盤づくりを推進します**

- 1 市町社協の組織基盤強化に向けた支援
- 2 住民による協議の場づくりと小地域福祉活動の推進
- 3 全県的な地域福祉推進のための調査研究、提言活動

**Action2 地域福祉を進める組織・福祉専門職養成を支援します**

- 4 社会福祉法人の経営力向上への支援
- 5 社会福祉法人の地域公益活動の推進
- 6 福祉の仕事のイメージアップ
- 7 「地域福祉を担う」福祉専門職の体系的な養成
- 8 介護支援専門員の養成・研修の充実

**Action3 「総合相談・生活支援」の充実と体制強化を支援します**

- 9 生活課題の解決に向けた相談支援体制づくりへの支援

**Action4 幅広い主体や社会資源がつながる地域づくりを支援します**

- 10 ボランティアグループ・NPO等の情報発信や資金支援の充実
- 11 多様な主体の協働に向けた新たな場づくり
- 12 NPOと行政、市町と市町社協の連携・協働の促進
- 13 大規模災害に備えた環境づくり

事業展開に向けた組織基盤強化

■表1 平成30年度の主な社会福祉施策の動向

地域共生社会	地域包括ケアシステム強化法施行(住民・行政等協働の包括的支援体制づくり、地域福祉計画の上位計画化、共生型サービスの開始)
生活困窮者	生活困窮者自立支援制度の見直し(ひきこもり支援・就労準備支援・子どもの学習支援等の充実)ほか
高齢者	地域包括ケアシステム強化法施行(再掲)、介護報酬の改定
障害児・者	第4次障害者基本計画実施、改正障害者総合支援法施行、障害福祉等報酬の改定
子ども	子育て安心プラン施行、新しい社会養育ビジョンの実現に向けた取り組み開始
福祉人材	介護職の魅力の広報活動等による人材確保対策の強化
社会福祉法人	小規模法人等のネットワーク化による地域公益活動、人材確保の推進

国は、多様で複合的な生活・福祉課題の解決のため、「地域共生社会」の実現を掲げ、住民参加による包括的な支援体制を地域ごとに進めていく方向性を打ち出した。

これは、福祉分野に限らず、地域創生や教育・防災などの分野でも同様の方向性にある。

平成30年度の主な社会福祉施策の動向としては、「地域共生社会」の実現を目指した「地域包括ケアシステム強化法」の施行により、住民の地

社会福祉を取り巻く情勢  
「地域づくり」がキーワード

域福祉活動への参加促進や、身近な圏域での生活・福祉課題の総合相談・支援体制づくり、生活困窮者自立支援制度における関係機関等の協働による課題解決体制づくりなど、福祉の各分野で連動した制度・施策が展開されることになる(表1)。

**兵庫県と県社協の動向**

平成30年度は、兵庫県を挙げて、「県政150周年記念」を掲げた中央事業や県民連携事業が各市町でも展開される。これまでの「地域創生」を重点にした施策に加え、「五国」の地域特性を生かした事業が進められていく。



# 平成30年度 県社協の主な取り組み

## 「ストップ・ザ・無縁社会」全県キャンペーンの推進

「支え合い社会」の実現に向けてこれまでの取り組みを継承しつつ、新たに実践テーマ「地域での支え合いをすすめよう!」を設定し、展開します。

- 「支え合い社会」県民フォーラムの開催(8月 参加者目標650名)
- 市町域での「地域フォーラム」の開催支援(10カ所、県政150周年記念県民連携事業と連携)

※その他、「ひょうごふるさと寄付金」を活用した「コミュニティカフェ開設応援事業」、地域での支え合い活動事例を発信します。



## Action1 市町社協とともに地域福祉の基盤づくりを推進します

市町域の課題解決ネットワークを構築し、市町社協が地域福祉推進のコーディネート役を発揮できるよう、全県的な地域福祉推進上の課題解決に向けた検討の場づくりや政策提言を行います。

- 社協の階層別協議・研究の場づくり(会長・局長・担当者向け会議 計8回、ブロック会議開催支援)
- 市町地域福祉推進計画の策定支援(策定目標39社協、「地域福祉政策研究会」での対応方策の検討)
- 生活支援コーディネーターの養成のための研修の実施(研修2回、コーディネーター配置目標235名)

※その他、社会福祉政策委員会による福祉関係者の意見集約と政策提言活動、調査研究の活性化を進めます。



## Action2 地域福祉を進める組織・福祉専門職養成を支援します

社会福祉法人が地域福祉の推進役としてサービスの水準をリードできるよう、施設種別協議会や幅広い団体・機関とともに法人の経営支援、福祉人材確保と育成の充実・強化を図ります。

- 「経営計画策定ワークブック」等による社会福祉法人の経営計画策定支援(8月 セミナー開催)
- 社会福祉法人連絡協議会の設立支援と代表者等連絡会の開催(設立目標30市区町、年3回連絡会開催)
- 相談窓口拡充と福祉のしごとPR事業の実施(体験学習 参加目標110名、バスツアー10コースほか)
- 地域福祉研修等の社会福祉専門研修事業の実施(8~10月 参加目標50名)
- 介護支援専門員施設版研修テキストの開発(3月)

### ○「ひょうご外国人介護実習支援センター」の開設・運営

外国人が日本で働いて修得した技術を母国の経済発展に役立ててもらうために創設された「外国人技能実習制度」に、昨年11月から「介護」も対象となりました。介護技能の実習指導員の配置や住まいの確保などの態勢を整えれば、開設3年以上の特別養護老人ホーム等で、介護経験者や看護師資格所有者などの受け入れが可能です。

県内での実習生受け入れを支援するため、平成30年度より県・神戸市からの補助を受け、県社協は「ひょうご外国人介護実習支援センター」を開設・運営します。送り出し機関(海外)と実習施設間をコーディネートし、入国した実習生に日本語・介護の講習を行うほか、監理団体として適正な実習が行われているか実施者に指導・監査を行い、実習生の相談支援を行います。

実行計画に掲載した事業と新規・重点事業を中心に紹介します。

## Action3 「総合相談・生活支援」の充実と体制強化を支援します

社協や福祉施設、NPO、民生委員・児童委員、行政などが連携した「総合相談・生活支援」の充実に向け、当事者の主体形成や、地域の専門機関等の包括的な支援体制の構築を進めます。

- 日常生活自立支援事業の実施(専門員・生活支援員向け会議・研修 計5回 延べ400名)
- 生活福祉資金貸付事業等の実施(担当者向け会議・研修 計3回 延べ100名)

※その他、運営適正化委員会による福祉サービスの苦情相談、市町域における市民後見人の養成、法人後見、後見監督の取り組み支援、生活困窮者支援連絡促進会議の開催、低所得世帯の進学支援を考えるフォーラムなどを開催します。

## Action4 幅広い主体や社会資源がつながる地域づくりを支援します

多様な地域課題の解決や災害時の被災者支援等に向けて、地域のボランティアグループやNPOなどの幅広い主体が力を結集し、連携・協働する地域づくりを推進します。

- ひょうごボランティア地域づくりネットワーク会議(3月 地域づくり団体と行政、企業等による情報交換)
- ひょうご中間支援団体ネットワーク意見交換会(2回 NPOと行政が協働による地域課題の解決方策を協議)
- 市町・市区町社協連携等会議(9月 市町、社協、NPO等の連携による地域づくりを協議)
- 災害救援ボランティア支援センターの体制強化(関係団体連絡会議3回、コーディネーター研修2回)
- 社会福祉法人、市町社協等が連携した、「災害福祉広域支援ネットワーク」の構築



## 事業展開に向けた組織基盤強化

安定的・継続的な法人運営に向けた組織強化、社会的期待に応えられるような事務局機能の強化、福祉への理解を広めるための情報収集・発信機能の充実・強化を行います。

- 法人のガバナンスの強化等に向けた取り組み(内部管理体制の基本方針、2020年計画「実行計画」の評価・見直し、部会・委員会の見直しによる機能強化)
- ひょうごの福祉の発行(読者アンケートの実施)
- 「経営計画策定ワークブック」「介護支援専門員施設版研修テキスト」等の出版
- 第67回兵庫県社会福祉大会の開催(11月)



### ○新・社会福祉研修所への移転準備

社会福祉研修所は、旧県立産業会館への移転準備を進めます。研修室の増加やAV機器等の活用などにより、研修機能の充実を図る予定です。



事業計画の全体版は、県社協ホームページでご覧いただけます。

神戸市西区の井吹台地区は、平成5年にまちびらきをした西神南ニュータウンにあり、約3万2千人(1万1千世帯)が暮らしているよ。ふれあいのまちづくり協議会とNPO法人ニューいぶきが協働して進める地域共生の居場所づくりを紹介するよ。



## みんなでつくる ひょうごの福祉

地域で支え合い、地域を元気にする取り組みを紹介します。

**住民発のNPOが推進役**

井吹台地区は、阪神・淡路大震災後の復興住宅等の建設に伴い、新たに移り住む高齢者や子育て世帯のつながりづくりを進めるため、自治会、民生委員・児童委員、地域団体やボランティアグループが連携して見守り活動や居場所づくりに取り組んできた。平成11年には、地域組織が中心となって井吹東ふれあいのまちづくり協議会(以下、「協議会」)を結成。その後、地域住民が主体となってNPO法人ニューいぶきを立ち上げ、地域福祉活動がいつそのの広がりを見せる。

ニューいぶきが開設した多数の居場所の一つに、発達障害の子どもを育てる母親が集う場がある。発達障害に対する理解を促進するため「母親の悩み・つらさを受け止める場を創ろう」と母親の会を結成。学習会や思いの分かち合いを重ねながら先駆的に子ども動作訓練・学習支援にも取り組んだ。子どもが成長した今では「あの時、寄り添ってもらって本当に助かった。ありがとう」との気持ちから運

## NPOをエンジンに居場所を創る

～みんなが集える“いぶき庵”～

今後、急激な高齢化が予想される井吹台地区。ニューいぶきは、高齢者が通いやすい町内会の範囲で、障害児・者や子育て世帯も気軽に参加し交流できる場を創ろうと、民家を借り上げて「いぶき庵」をオープンした。

いぶき庵では、支援が必要な高齢者・障害者・乳幼児を対象にしたミニデイサービスを実施し、介護福祉士など住民の有資格者が支援に関わる(週1回程度・有料)。また、月2回程

営に関わる母親もいる。

こうした流れをくみながら、平成26年3月、ニューいぶきが新たな居場所を開設した。それが「いぶき庵」だ。

**将来を見据えた居場所「いぶき庵」**



バランスボールを使った動作訓練  
子どもの成長に寄り添う



紅茶と手作りケーキのセット  
「おいしいね」と会話が弾む(いぶき庵)

度、誰でも参加できるオープン喫茶も催している。毎回10人ほどが集い、交流を深めながら楽しい時間を過ごす居場所だ。何気ない会話の中、ちょっとした困り事もキャッチする相談窓口の役割も果たす。

ニューいぶき理事長で協議会委員長の坂本津留代氏は、「一つ一つの居場所・活動の継続と積み上げが地域の財産になる。支える側、支えられる側の立場を超えて住民同士がつながることで、みんながまちを好きになり、活動の参加にもつながっていく。それは大人も子どもも同じ」と話す。

井吹台地区では、みんなが共につながり、支え合う居場所づくりが進められている。

### 取材を終えて

「地域のつながり・支え合いを自分たちで創る」という井吹台地区の取り組みから、将来を見据えた“福祉でまちづくり”の様子が伝わってきました。

井吹東ふれあいのまちづくり協議会  
特定非営利活動法人ニューいぶき  
神戸市西区井吹台東4丁目21番地の2  
TEL 078-996-3569

## TOPICS

### 幹事会で、全県キャンペーンの実践テーマを決定! 「地域での支え合いをすすめよう!」

3月7日、県福祉センターにおいて全県キャンペーン推進協議会の幹事会が開催されました。



吉本知之代表幹事(県社協会会長)は、冒頭、「地域では、子ども食堂や社会福祉法人の地域公益活動など、多様な“支え合い”の取り組みが進められている。さらに、ひょうごふるさと寄付金を活用したコミュニティカフェも2年目を迎え、地域でのサロン・居場所づくりも着実に広がりを見せている」と挨拶した上で、さらに「来年度は、県政150周年に関連して、地域づくりなどをテーマに各種事業・イベントが実施されることから、幹事団体・推進団体と共に取り組みを進めていきたいと思います」と呼び掛けました。

続けて、平成29年度事業報告(案)・決算見込み、平成30年度事業計画(案)・予算(案)について協議し、今後の取り組みの方向性を確認・共有しました。

### 平成30年度事業計画(案)

- 1 「支え合い社会」県民フォーラムの開催  
・時期:平成30年8月(予定) 会場:神戸市内
- 2 「地域での支え合い活動」事例の収集・発信
- 3 地域でのつながりの場づくりの支援  
・「コミュニティカフェ開設応援事業」の実施
- 4 広報・啓発活動  
・「地域での支え合いをすすめよう!」をテーマとしたパンフレットの作成・配布
- 5 推進協議会の運営
- 6 推進団体の加入促進、協賛金の募集

### 「地域での支え合い」をテーマに 地域フォーラムを開催しよう! ～助成事業のご案内～

兵庫県は、今年7月12日に成立150周年を迎えるに当たり、県民が主体的に企画・実施する創意工夫にあふれた取り組みを支援する「県民連携事業」を実施しています。各地域の課題解決や支え合いの輪を広げるため、地域フォーラムを開催する際に県民連携事業を活用しましょう。

#### 事業実施期間

平成30年4月2日(月)～平成31年3月31日(日)

#### 申請受付期間

平成30年2月5日(月)～平成31年2月5日(火)  
・随時受け付け。事業開始月の前月5日までに申請が必要。

#### 助成額

1団体当たり5万円～50万円(上限)  
・大規模事業は、特認事業(対象事業費の2分の1以内・上限500万円)とする場合がある。

#### 県民連携事業に関する問い合わせ先

兵庫県地域創生課 県政150周年記念事業室  
TEL:078-341-7711(内線4705、4709)

### 支え合いの地域づくりを、みんなで進めよう

新温泉町では、地域フォーラムとして3月4日に第28回福祉講演会を開催し、民生委員・児童委員や福祉活動者、町民ら約230人が参加しました。

講演では、「大野木長寿村まちづくりのあゆみ～私たちのめざす地域共生社会～」と題し、滋賀県にある(一社)大野木長寿村まちづくり会の清水清市代表理事が登壇。地域住民や高齢者同士が支え合いながら安心して暮らせる地域づくりを進めることの大切さについて学びを深めました。

また、住民グループによるフラダンスがあったほか、介護相談や介護用品の紹介、訪問入浴の模擬体験コーナー、福祉バザー等の催し物も好評で、支え合う地域づくりに向けて機運を高める機会になりました。





このコーナーでは、地域福祉のキーパーソンや実践者・当事者らのエピソード・想いを紹介していきます。

## 人生の再出発ができる “回復の街”へ

うめだ やすのり  
**梅田 靖規**さん (神戸市)

### Personal History

平成19年 「茨城ダルク」(薬物依存者の回復支援施設)に入所  
同年からダルクのスタッフとして勤務する傍ら、  
大学で心理学を学ぶ  
平成28年 「神戸ダルク ヴィレッジ」を開所、代表理事を務める



私のモットー

弱さをみせて  
強くなる

助けを求めた9年間  
探し続けた9年間

僕は25歳から9年間、覚醒剤をやめることができませんでした。「(薬をやめたい)「助けてほしい」と思いながら薬に手を出し、自分を責め続ける日々でした。

きっかけは、当時付き合っていた女性が覚醒剤を使用し、泣きながら「助けて」と電話をかけてきたことでした。僕は助ける術を知りませんでした。「一緒にやめよう」と、彼女と薬物を使用した後、はまりました。その後、彼女は薬物が原因で亡くなり、それを忘れるためにさらに薬物にのめり込みました。友人も仕事も失いましたが、やめられませんでした。

薬物を断ち切るために、さまざまなおことをしました。警察に「助けてほしい」と電話したこともあり、最後は幻聴に悩まされました。苦しくてたまらなくて自殺未遂を繰り返しましたが、死ぬこともできませんでした。

「もうダメだ。自分を一生どこかに閉じ込めて欲しい」と母親に電話

し、「茨城ダルク」の入所につながりました。ダルクとは、民間の薬物依存の回復支援施設です。入所後も数回、ダルクを飛び出して薬を使ってしまいました。スタッフや入所者に本音をぶつけ、心の内を聞いてもらうことが回復に大いに役立ちました。最後にダルクを飛び出して戻った時、仲間たちがご飯にかけたサラップに寄せ書きをして僕を待っていてくれました。「薬のせいでこれを失いたくない」と強く思い、この日を境に変わりました。こうして薬物を断つ日を重ね、10年を超えました。

回復の道を歩む中、茨城をはじめいくつかのダルクやフィリピンで薬物依存症者の回復を助けるスタッフとして働くようになりました。その傍らで大学に通い、心理学を学びました。その後、仕事で出会った医師の勧めもあって平成28年に神戸でダルクを立ち上げました。

ヴィレッジという名称を付けたのは、ダルクだけでなく地域社会そのものを依存症者の回復の場に

地域社会を回復の場に

### 一般社団法人 「神戸ダルク ヴィレッジ」

電話 078-224-4244  
(月～金 10:00～17:00)

メール Kobe.darc@gmail.com

URL <http://www.kobedarc.org/>

●毎月第4日曜日の13時～16時まで、薬物依存症の家族会を開催しています(参加費1,000円)。

●薬物依存からの回復に役立つ情報を配信するインターネットラジオ「リカバリーラジオ 078MHz KOBE」をスタート。ホームページから聴くことができます。

ていきたいという思いからです。ダルクだけの支援には限界があります。さまざまな自助グループや支援機関、行政、地域住民が手をつなぐことで、「助けて」を言える先が増え、絶望し孤立した人々の回復に向けた理解が深まります。□先だけではない連携を進めたいというのが願いです。この一歩として、今年の2月にさまざまな依存症の自助グループ、家族、支援者等が一堂に会する「アドイクションフォーラム」を兵庫県で初めて開催しました。

薬物依存は、本人が歯を食いしばって頑張れば克服できるものではありません。家族や仲間、周りの人の理解とつながりの中で、何気ない日常を味わう経験が、生き直すことの背中を押してくれると思っています。

## Q2.どんな取り組みですか

**A2.** 買い物支援は、平成29年5月にスタートしました。「買い物に行くのに移動手段が無い」「買い物に行って重い荷物を運ぶのが大変」といった高齢者の困り事に対応するため、週1回、施設の車を使って自宅とショッピングセンター間の移動を支援しています。

現在9名が利用しており、他の方からも希望が寄せられています。人手と車両の確保の課題があり、今以上の対応は難しいですが、利用日が重ならないように案内するなど、工夫をしていきたいです。

## Q1.取り組みのきっかけは

**A1.** 住民が運営するサロンに認知症をテーマとした出前講座を始めたことがきっかけです。

出前講座を実施する中で、日々の買い物に困っていないか聞いてみたところ、地域の商店が閉店して困っていること、高齢のため自動車の運転免許証を返納したものの日々の食材等の買い出しに困っているといった意見を聞くことができました。

そこで始めたのが今回の取り組みです。

新コーナー

暮らしを支える地域公益活動を紹介します。

## キラリ★社会福祉法人★

～社会福祉法人 勝心会(上郡町)～

### 買い物支援サービス

今回取り上げるのは、社会福祉法人勝心会の特別養護老人ホーム「ほうらいの里」が取り組む「買い物支援サービス」。これは、地域向けの出前講座に参加した職員が住民の困り事を聞いたことから、新たに開発した取り組みです。

住民のニーズとつながった社会福祉施設の取り組みを紹介します。

買い物支援が住民の生活を支えています



## Q3.今後、どのように進めていきたいですか

**A3.** 社会福祉法人は日頃から地域・住民とのつながりづくりが大切で、住民ボランティアの受け入れ、小学校との交流、ふれあい祭り等が活動の展開につながっています。

併せて、日常業務の延長で取り組むという意識も大切です。施設の専門性を生かした出前講座、送迎車を活用した買い物支援は、いずれも特別な取り組みとは考えていません。出前講座は、上郡町内3カ所のサロンで実施していますが、未実施の地区からも要望がありますので、可能な範囲で広げていきたいです。

これからも地道に継続して取り組み、地域に住む人全てが、自分らしい生活を続けていくための取り組みを進めていきたいです。

社会福祉法人勝心会  
特別養護老人ホームほうらいの里  
赤穂郡上郡町中野1118-1  
TEL:0791-52-5900  
URL:<http://www.hohrainosato.com/>

生活支援コーディネーターが  
地域づくりについて情報交換

2月14日から15日にかけて、県社協では「生活支援コーディネーター情報交換会」を開催。県内の生活支援コーディネーターら76名が参加した。  
初日は、住民による支え合い活動などの地域づくりを進めるために、住民による協議の場づくりや運営の支援について各市町の状況を共有した。また、ファシリテーターとして活躍している青木将幸氏を講師に迎え、会議運営のためのファシリテーション技術を学ぶとともに、主体性を尊重した会議運営の視点について理解を深めた。



リレー報告やグループワークを通じて、各市町の実践や課題を共有した

寄付・寄贈のお礼

2月13日に神戸を拠点に活動する音楽バンド「GETCHA!」から兵庫善意銀行に車椅子4台を寄贈いただいた。  
車椅子は、相生市、明石市、赤穂市、芦屋市の各社協で活用される。



2月23日、兵庫日産自動車(株)・日産但馬販売(株)の車椅子寄贈式が開催され、県身体障害者支援施設協議会と県知的障害者施設協会に車椅子20台が贈呈された。  
同社の社会貢献活動「愛の車いすキャンペーン」は7回目。これまで延べ135台の車椅子が福祉施設等で活用されている。



2日目は、兵庫大学生涯福祉学部の小林茂准教授をアドバイザーとして、行政、地域包括支援センター、社協が連携・協働して住民による地域づくりを支援するための方策について協議を深めた。  
参加者は、当事者の生き方に寄り添いながら社会とのつながりを生み出す地域福祉推進の方向性を確認する機会となった。

政策提言への回答会が開催

2月19日、県中央労働センターにおいて、本会が昨年8月に行った「平成30年度兵庫県社会福祉政策への提言」に対する回答会が開催された。県関連部局幹部と本会の社会福祉政策委員会(以下、委員会)委員が参加し、内容の説明および質疑が行われた。

県の平成30年度予算は、行財政構造改革の総仕上げや県政150周年の取り組み、地域創生の推進などを反映した予算編成となった。  
本会の提言内容も踏まえ、福祉人材確保戦略会議の設置や相談窓口の拡充、外国人技能実習制度の活用をはじめ、災害時の福祉避難

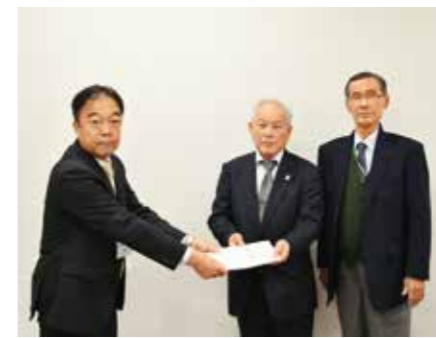
3月10日、東条湖おもちゃ王国はチャリティーイベント「おもちゃ王国の休日」を開催。児童養護施設や母子父子家庭の子どもと保護者ら約650名に加え、東日本大震災で被災し県内に避難している家族を招待した。  
子どもたちやおもちゃ乗り物で楽しい一日を過ごした。



3月13日、親切会関西支部から県内で活動する当事者団体等3団体に寄付金が贈呈された。  
贈呈先は、「芦屋家族会」「認知症をささえる家族の会」「にじの会」「宝塚広域ボランティア連絡委員会」で、研修や交流会など、活動の充実発展のために活用される。



所設置・運営体制の充実および兵庫県災害福祉広域支援ネットワークの拡大、地域共生社会の実現に向けた地域相互見守りモデル事業の継続や災害時要援護者の個別支援計画作成のための研修実施など、重点・新規施策等について県から回答が示された。  
委員会では、引き続き社会福祉政策の充実に向けて提言活動に取り組んでいく。



柏福祉部長(左)から長井副委員長(中央)と婦木副委員長(右)へ回答書が手渡された

福祉の就職総合フェアに  
学生・求職者が来場

3月10日、神戸国際展示場2号館で、「第2回福祉の就職総合フェア in HYGOGO」を開催した。当日は、164の法人がブースを設け、福

県社協常務理事の交代

県社協常務理事の構忠宏氏が退任し、福田好宏氏(元社会福祉法人兵庫県社会福祉事業団会長)が副会長兼常務理事に就任した。  
任期は、平成30年4月1日から平成31年度の定時評議員会の終結の時まで。

県社協事務局組織の  
一部再編について

県社協では、平成30年4月から企画・管理部門を「企画部」「経理部」に再編するとともに、介護分野の外国人技能実習生の受け入れ支援を行うため、新たに「ひょうご外国人介護実習支援センター」を設置する概要は、本紙5ページに掲載。設置場所は、県福祉センター4階となる。



社の仕事に興味・関心を持つ360名の学生や求職者が来場した。



それぞれの法人が工夫を凝らしたブースを出展。参加者は、熱心に説明を聞いた

来場者は、関心のある法人のブースで説明を受けるとともに、施設・事業所の若手職員らとの交流コーナーで就職活動の進め方や仕事の魅力について積極的に質問し、就職に向けた気持ちを固めていた。  
県福祉人材センターでは、平成30年度も、県内各地で求職者と福祉職場との多様な出会いの場づくりを行っていく。



就職活動の進め方を相談する参加者

福祉体験学習事業のお知らせ

県福祉人材センターでは、福祉の仕事に興味・関心のある方なら、どなたでも施設や事業所で福祉職場の体験ができる「福祉体験学習事業」を実施する。

「福祉の仕事に興味があるけど実際の職場はどんな雰囲気か知りたい」「自分にも介護の仕事はできるだろうか」など、体験を通じて素朴な疑問を解決する機会になる。

県内の施設等(433カ所)が体験先として登録。希望者は福祉人材センターに申し込む。

※体験先や申込書などは、県福祉人材センターのホームページ(<https://www.hyogo-wel.or.jp/work/>)に掲載。

体験先 (平成30年4月時点)

- ・高齢者分野 258カ所
- ・障害者分野 102カ所
- ・児童分野 73カ所

体験可能日

平成30年4月1日(日)  
～平成31年1月31日(木)

対象者 高校生以上の方

体験日数 1カ所あたり上限5日間

# INFORMATION

## 助成金情報

福祉活動等に対する助成金の情報です。詳細は、それぞれの問い合わせ先にご確認ください。

### 公益財団法人毎日新聞大阪社会事業団 配食車贈呈事業

高齢者や障害者を対象にした配食サービスを展開しているボランティアや民間団体、施設などに配食サービス車を贈呈します。

**対象** 高齢者や障害者らを対象にした配食サービスを行っているボランティアや民間団体、施設など

**内容** 年間1台の配食サービス車を贈呈

**締切り** 平成30年5月11日(金)必着

**問合せ** 公益財団法人毎日新聞大阪社会事業団 TEL 06-6346-1180

**URL** [https://www.mainichi.co.jp/osaka\\_shakajigyo/](https://www.mainichi.co.jp/osaka_shakajigyo/)

### 社会福祉法人兵庫県共同募金会 平成30年度社会福祉関係団体・ボランティア団体・NPO支援事業

**対象団体** 社会福祉事業または更生保護事業を行う団体、ボランティア団体、NPO法人のうち次の条件を満たす団体①兵庫県内に所在し、県域または複数の市区町域で活動を行う団体②活動実績が2年以上ある団体

**助成額** 1件上限30万円(総額430万円の予定)

**締切り** 平成30年5月14日(月)消印有効

**問合せ** 社会福祉法人兵庫県共同募金会 TEL 078-242-4624

**URL** <http://www.akaihane-hyogo.or.jp/>

### ひょうご安全の日推進県民会議 ひょうご安全の日推進事業 平成30年度助成

「ひょうご防災減災推進条例」に基づき、地域団体など県民の皆さんによる、阪神・淡路大震災の経験と教訓を継承し安全・安心な社会づくりを推進するため、日々の生活の中で防災減災に取り組む「災害文化」を広める事業を支援します。

- ①全県事業・地域事業
- ②実践活動事業
- ③個別計画等策定事業
- ④感震ブレーカー設置・家具固定推進事業

**対象・助成額** 詳細はホームページへ

**締切り** ①【第2期】平成30年6月1日(金)～6月15日(金)【第3期】平成30年9月14日(金)～9月28日(金)、②～④ 事業開始月の前月5日まで

**問合せ** ひょうご安全の日推進県民会議事務局 TEL 078-362-9984

**URL** <http://19950117hyogo.jp/>

## 行事予定

**4月4日～** 介護支援専門員 更新研修B・再研修

◆県社会福祉研修所ほか

**16日～** 介護支援専門員 専門研修課程 I・研修研修A(前期)

◆県社会福祉研修所ほか

**16日** 社会福祉協議会新任局長研修

◆県福祉センター

**16日～17日** 社会福祉協議会新任職員研修

◆県福祉センター

**17日** 福祉のオンゴトはじめてガイダンス

◆ハローワーク神戸

**24日** 日常生活自立支援事業 新任専門員研修会

◆県福祉センター

児童福祉施設新任職員研修

◆県社会福祉研修所

**5月 1日** 老人福祉施設新任職員研修Aコース

◆県社会福祉研修所

**7日・29日** チーム・マネジメントリーダー研修Aコース

◆県社会福祉研修所ほか

**10日** 福祉行政機関新任職員研修

◆県社会福祉研修所

**15日** 生活福祉資金新任担当職員研修会

◆県福祉センター

**23日** 障害福祉施設新任職員研修Aコース

◆県社会福祉研修所

**24日** 老人福祉施設新任職員研修Bコース

◆姫路商工会議所

## 県社協職員異動・昇任

平成30年4月1日付、[ ]内は前職名等

事務局次長(企画経理担当)

[事務局次長(福祉推進担当)] 福島 真司

事務局次長(福祉推進担当)[企画部長] 馬場 正一

企画部長[地域福祉部副部長]

同 副部長[福祉事業部副部長] 戸田 達男

同 主任[総務経理部主任] 岡地 茂 吉田 尚史

経理部長[総務経理部長] 前田 敬代

同 副部長[総務経理部副部長] 福本 良忠

同 主任[総務経理部主任] 井筒 隆久

ひょうご外国人介護実習支援センター長 [新規採用] 大西 徹

地域福祉部副部長[社会福祉研修所研修第1部副部長] 荻田 藍子

同 主任[事務局主任(県高齢対策課派遣)] 鬼城 良一

同 主事[ひょうごボランティアプラザ総務調整部主事] 山下 美春

福祉事業部主任[地域福祉部主任] 廣瀬 真由美

福祉支援部主任[福祉支援部主事] 谷水 明子

同 主事[新規採用] 納庄 良輔

同 主事[新規採用] 中井 郁

社会福祉研修所長[新規採用] 武中 初枝

同 研修第1部長[県派遣・兵庫県生きがい創造協会生涯学習支援課長] 濱田 陽介

同 研修第1部副部長[総務経理部副部長] 宿院 耕平

同 研修第2部長[企画部副部長] 新屋 幸子

同 研修第2部主任[福祉支援部主任] 北野 全彦

ひょうごボランティアプラザ総務調整部主事 [新規採用] 佐藤 哲也

同 交流支援部副部長[県派遣・ひょうご震災記念21世紀研究機構管理部財務課長] 長澤 均

同 参事(事業調整担当) 都 完治

## 派遣

平成30年4月1日付、[ ]内は前職名等

事務局主任(県高齢対策課派遣) 高橋 操実

[地域福祉部主任]

## 退職

平成30年3月31日付

事務局次長(総務企画担当) 都 完治

社会福祉研修所長 小野山 政行

同 研修第1部長(県派遣終了) 辻岡 克明

同 研修第2部長 吉本 聡

ひょうごボランティアプラザ交流支援部副部長(県派遣終了) 岡原 弘幸

# 送迎も"クロネコ"

貴社の送迎業務を一括して引き受けます!

**ヤマト・スタッフ・サプライ株式会社**

兵庫支店 ■自家用自動車管理請負業

兵庫県神戸市中央区磯上通 5-1-24 三光ビル 4F

Tel : 078-241-6651

ドライバーを採用・教育する時間が無い!

社有車の点検・整備が行き届かない!

運転を兼務している社員の負担を減らしたい!

